

第2 防犯診断の進め方

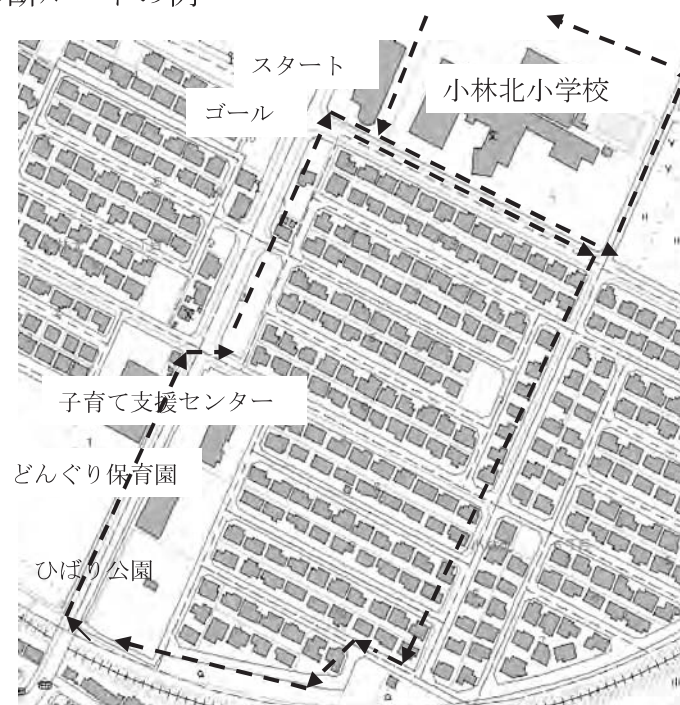
防犯診断は、地域住民、市町村、警察、場合によっては学校や事業関係者が互いに協力して、防犯面からより安全で安心なまちにしていくための具体的な方策を考え、実行していくものです。

なお、防犯をめぐる環境は、時間の経過とともに変化します。そのため、「診断」→「対策実行」→「診断」と繰り返し、まちの安全・安心をより高めていくことも安全で安心なまちづくりに効果的です。

2-1 防犯診断の手順

(1) 防犯診断の地域と順路を決める

- ① 防犯診断の地域を決める **(市町村や自治会などの実施計画者と警察)**
 - 犯罪の発生状況（頻発する犯罪、被害対象物、施設などの情報を把握する）
 - 地域住民の不安感、住民からの要望などを考慮する
 - 1時間程度でゆっくり歩ける範囲が好ましい
 - ② 診断の順路を決める **(実施計画者と警察等による協議)**
 - 地域をいくつかの区域に分けて複数の班体制で診断を実施する場合には、それぞれの診断の順路を決める。《図4》
 - ③ 実施計画者は、できるだけ事前に診断地域・区域を実地踏査する **(実施計画者と警察等)**
 - 診断地域を安全に案内できるように下見をする
 - 地域内の被害対象物や施設の状況を確認する
- 《図4》診断ルート例



平成 21 年 1 月 27 日実施 印西市合同防犯診断より

(2) 診断の実施日程と会議室の確保

- ① 実施日程を決める **(実施計画者と警察等)**
 - 雨の中では視界が悪く、危険度が高まることを考慮する。
 - 診断地域の選定に当たり、犯罪の発生状況等を勘案し日中や薄暮時などの実施時間を決定する
- ② 話し合いのための会議室等を確保する **(実施計画者)**
 - 診断地域の近いところに話し合いのための会議室等を確保する。
 - 話し合いの際に、診断地域の地図を掲示したり板書したりできるような備品のある場所が望ましい

(3) 参加者の募集と事前協議

- ① 診断地域内の自治会住民、自主防犯団体に参加を呼びかける **(実施計画者)**
- ② 診断地域内に学校があったり、通学路がある場合には、学校関係者やPTAにも参加を呼びかける **(実施計画者)**
- ③ 診断地域内の施設（道路、公園、駐車場、駐輪場など）を管理する担当課等にも参加を要請する **(市町村)**
- ④ 診断実施後の話し合いがより建設的なものになるよう、可能な限り施設管理者と警察等を交えて事前協議を行う（すぐできること、できないことを明確にしておく）

(4) 資機材の用意

- ① 防犯診断を行う地域の地図（住宅地図や町内会の地図等） **(実施計画者)**
 - 検討会や発表会で使用するのなるべく大きめのもの
- ② 筆記用具 **(実施計画者)**
- ③ カメラ **(実施計画者)**
 - ポラロイドカメラがあると検討会のときに地図に貼り付けることができる
 - パソコン等を使用できれば、デジタルカメラでもよい
 - 経過写真の整理用とする
- ④ 防犯ジャンパー・腕章・帽子 **(実施計画者、自主防犯団体)**
 - 診断の際の安全確保という観点からも目立つものを着用したほうがよい

(5) 配布資料等の用意

- ① 日程表 **(実施計画者)**
 - 時間割、注意事項などを明記（サンプル）
- ② 防犯診断の経路図 **(実施計画者)**
- ③ 必要に応じて犯罪発生等情報に関する資料 **(警察等)**

《日程表の例》

平成 年 月 日 ()	
「合同防犯診断」日程表	
13:30	集合（集合場所：〇〇公民館）
13:30 ～ 13:55	1 防犯診断の趣旨及び実施要領の説明（〇〇市〇〇課） 2 日程説明と諸注意（〇〇市〇〇課） 3 犯罪情勢（〇〇警察署）
14:00 ～ 15:00	防犯診断の実施
15:05 ～ 16:00	診断結果の発表・改善策検討
16:00 ～ 16:10	全体総括
<p>〔準備品〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ メモ用紙 ○ 筆記用具 ○ 防犯ベスト、腕章、帽子 ○ 防犯誘導灯 ○ <p>〔注意事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ お互いに声を掛け合い、通行車両に十分注意すること ○ 歩車道の区別がある場合は、歩道を歩くこと ○ 歩車道の区別がない場合は、道路中央へは出ないこと ○ 	

2-2 「まち」を歩いて防犯診断を行う（全体編）

「まち」へ歩き出す

○ 班編成

あまり人数が多いと説明者の声が通りにくくなり、全体の行動が間延びしがちとなって、安全面のうえからも好ましくありません。参加者の全体人数から適度な人数（15名程度）の班編成に分けます。（事前に班編成案を実施計画者で用意しておくといよいでしょう。）

○ 役割分担

班長、説明者のほか、記録係、写真係などの役割分担を決めます。できれば、安全確保係、緊急時の連絡係なども決めておくといよいでしょう。

防犯上の改善を要する場所の観察

安全で安心なまちづくりの4つの基本的な手法（視点）、①被害対象の強化・回避、②接近の制御、③監視性の確保、④領域性の強化を意識しながら、犯罪者が犯罪を起こしやすい場所はないか、犯罪に遭った者が逃げにくい場所はないか、参加者自身が、犯人になったつもりで、被害者になったつもりで、「まち」を観察します。

【観察上のポイント】

○ 犯人になったつもりで

やりやすい 見つかりにくい 逃げやすい

○ 被害者になったつもりで

不安だ 逃げられない 助けを求められない

【注意事項】

- 「まち」の観察に気を取られて、怪我や事故のないように
- 全体の動きを見ながら、安全に気を配る人を置く



説明する者、観察する者、安全確認する者など役割を分担します

《観察上のポイント》

犯罪が起こりやすい場所	4つの視点
<input type="checkbox"/> 暗い、見通しが悪い <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 照明がない（不十分） <input type="radio"/> 建物や高い塀に囲まれている <input type="radio"/> 草木が伸びている <input type="checkbox"/> 汚い <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 道路、公園、空き地等でのゴミの散乱・放置 <input type="radio"/> 落書きや張り紙 <input type="checkbox"/> 無関心 <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 放置自転車や路上駐車 <input type="radio"/> 出入り自由な空き家など <input type="checkbox"/> その他（住民の不安の増幅） <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 少年のたまり場など 	③監視性の確保 ②接近の制御 ④領域性の強化 犯罪を行おうとする者に 犯罪をやりやすいという 印象を与えない ①被害対象の強化 ④領域性の強化 魅力的なまちにしてい

《注意事項》

受傷事故の防止	トラブルの防止
<input type="checkbox"/> 周囲の状況に注意する <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 交通車両（自動車・オートバイ・自転車等） <input type="radio"/> 地形、配置物（段差・突起物等） <input type="checkbox"/> 出入口や道路上に立ち止まらない <input type="checkbox"/> 日暮れ時、夜間の場合は、反射材を身に付け、懐中電灯や防犯誘導灯を持つ <input type="checkbox"/> 雨天時は、視界が悪くなるので特に注意する	<input type="checkbox"/> あいさつをする <input type="checkbox"/> 無断で立ち入らない <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 土地、建物、車両等 <input type="checkbox"/> 無断で撮影しない（プライバシーの侵害に注意） <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 家の中、人の顔、車両ナンバー等 <input type="checkbox"/> 人の嫌がることを聞き出さない、他人に話さない <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 被害体験、防犯診断中に、たまたま知り得た他人の情報